



マッケーナ スティーブン アンソニーさんと、妻・美津さん、長男・大河くん (対馬町肉会)

**アイランド出身の 農業者**

結婚を機に三川町で暮らし、農業を営むアイランド出身のマッケーナ スティーブン アンソニーさん(対馬町肉会)も家族と一緒に野菜を栽培しています。

「仕事は外で体を動かす方が好き。」というスティーブンさんは、町内の農業法人で農作業に従事しながら、家庭内でも妻の美津さんの野菜栽培を手伝い、物産館マイデルなどに出荷しています。

今年は稲作のほかに、バジル、きゅうりなどを育てていますが、「農業を始めて1年目。上手に作るための勉強が大変。ちゃんとやるのが難しい。」と苦労しているところも日本語で話してくれました。

農業のどんなところが好きか聞いてみると、「美味しいものが食べたい。自分で作れるのが楽しい。」と笑顔を交えながら語ってくれました。

家族で仲良く作業をしている様子がとても印象的でした。



**物産館マイデル**  
(道の駅庄内みかわ内) ☎ 68 - 2500

**今回紹介した産直**

これらの野菜を使ってサラダを作ってみました。色とりどりに彩られたサラダは、食卓を飾り、食欲がそそられます。季節ごとに楽しめる彩り野菜を是非ご堪能ください。



# 三川町の「田からもの、(野菜編)」 町を彩る野菜たち



町の農産物は「米」だけではありません。最近では、目でも楽しみ、口で味わう「彩り野菜」をはじめ、新しい野菜が栽培されています。そんな、賑やかに町を彩る「田からもの」の野菜たちを紹介します。

**鮮やかな野菜**

三川町は、町の大部分が「田」となっており、お米が町の特産品となっています。町のふるさと納税の返礼品でも目玉商品はお米です。

しかし、米価の低迷や生産調整の強化などでお米を取り巻く環境も年々厳しくなっています。そのような中、お米と合わせて農業所得を向上させる手段として「野菜」が注目されています。

町内の産直施設「物産館マイデル」を訪れると、夏野菜をはじめ、市場でもあまり見られない珍しい野菜も販売されています。コリンキーやブライトライトなど、近年開発された新品種や外国産の野菜が三川町内で栽培され、直売されています。旬の野菜の詰め合わせセットもふるさと納税の返礼品で人気があります。

これらの野菜は、食卓を彩るだけでなく、野菜生産者の積極的な取り組みや販売増進など、地域産業の活性化につながっています。

今回はそんな野菜たちを生産者とともに紹介します。



**産直の声**

町内にある産直施設の一つである「物産館マイデル」に、野菜の取り組みについて聞いてみました。

物産館マイデルでは、産直として地元で栽培された野菜や果物、花きなどを販売しています。最近では、山形県農業技術普及課からアドバイスを受け、従来の野菜のほかに、新しい品種の野菜も取り扱っています。

生産者たちも、新しい野菜を育てようと、皆で勉強し合い、いろんな新しい取り組みに挑戦しています。

また、当店は安心・安全・新鮮な「エコファーマーのお店」をキャッチフレーズにしています。「エコファーマー」とは、農業をあまり使用しない農法により栽培をする生産者のことで、県知事からの認定が必要です。現在18人の生産者がその認定を受けており、今後も増やしていきたいと思っています。

毎年10月ごろからは、人気商品の「目でも楽しみ、口で味わう」「彩り野菜」がどんどんお店に並びます。来店されたお客さまからも、「色とりどりの野菜は珍しい。」という声とともにたくさん購入していただいています。是非お立ち寄りください。

物産館マイデル運営協議会  
代表 齋藤みつさん



▲コリンキー

▲紫キャベツ

▲完熟トマト  
▲黄色いトマト

▲ブライトライト



7月下旬に物産館マイデルを訪れた際にも、店内には色とりどりの野菜たちが盛りだくさん並んでいました。

こんな野菜がありました



栽培中のパプリカ



鈴木祥之さん (成田新田町内会)

**パプリカ生産を始める**  
 ーがんばる農家支援事業ー

成田新田町内会の鈴木祥之さん(26歳)は、今年から本格的に農業を始めました。「元々、農家ではなかったため、農地や園芸施設を手に入れることから始めた。」と話してくれた鈴木さんは、親戚からハウスを2棟借りて、パプリカを栽培しています。

そのハウスを使うにあたって必要な資材整備費やパプリカの苗代といった初期投資費用に、町の「がんばる農家支援事業」を活用しました。「以前、飲食店で勤務していた際に、国産の食材の良さを実感し、どうやって作っているのか農業自体に興味を持つようになり、自分でもやってみたくなった。」ということから自分で農業を始めた鈴木さんは、平日の日中は会社に通いつつ、朝や土日を中心に農作業をしています。初めは何の作物を育てようか迷い、農協に相談したところパプリカを奨められ、町内のパプリカ生産者からも随時アドバイスを受けながら栽培しています。

「農家は減少しているものの、自分のような農業に新規参入した素人は、なかなか農地や農機具を借りることができない。」と大変なことも知りましたが、「今後は園芸作物を中心にもっと拡大していきたい。」とこれからの目標を語ってくれました。農業の担い手の高齢化が問題となっている中で、鈴木さんのような若い力に期待が寄せられています。

今回、鮮やかで生き生きとした野菜の紹介を通して、生産者たちのお話を伺っていると、珍しい野菜を生産する方や、農業を始めたばかりの方は特に強い志を持って取り組んでいることを感じました。

その気持ちが新しい取り組みという形で現れ、地域産業の活性化にもつながっています。そんな三川町の「田からもの」である野菜たちを、皆さまから是非応援していただきたいと思っています。



今回紹介した農業支援メニューには、それぞれ対象内容や補助率などの要件があります。また、他の支援事業に該当する場合もありますので、詳しくは問合せください。

○各種農業支援に関する問合せ先  
 役場産業振興課 農政係  
 ☎35-7017

**施設園芸の取り組みを支援**  
 ー三川町農産所得拡大支援事業ー

三川町では今年度から、施設園芸による更なる農産所得確保を支援する「三川町農産所得拡大支援事業」を始めました。施設園芸のためのパイプハウス設置や機械設備導入などが対象です。

## 三川町の「田からもの、(野菜編)」

# 農業支援を利用して

野菜生産にあたって、町ではいろいろな支援事業を行っています。その支援事業を活用した方を通して、事業内容を紹介します。



菅原義弘さん (対馬町内会)



栽培中のエゴマ



**新たに農業を始める**  
 ー農業次世代人材投資資金(経営開始型)ー

対馬町内会の菅原義弘さん(21歳)は平成28年から就農しました。新たに就農するにあたって、就農直後の経営確立を支援する国の「農業次世代人材投資資金(経営開始型)」を活用し、営農を始めました。

現在では、1・5haほどの経営面積を持ち、無農薬・無化学肥料による有機栽培の米や大豆などを栽培しています。その他にも、農業所得の向上を目指して、加工にもチャレンジ。無農薬で栽培したエゴマを、町内の団体に製油を依頼し、「えごま油」として販売しています。

就農前の農業研修時代に、「農業をしている姿がかっこいい。」と思いついて就農を決意した菅原さん。現在では、ともに農作業をする父親や地元の方々からアドバイスを受けながら農業に動んでおり、「有機農業で家庭を支えてきた父親の姿を見て育ってきた。対馬地域の有機農業を自分が継承していきたい。」と今後の目標を語ってくれました。

また、「手間を掛けた分だけ、美味しくなることにやりがいを感じ、農業をすることが楽しい。」と感想を語ってくれた菅原さん。いろいろな人と関わり、支えられながら着実に農業の担い手が育ってきており、頼もしさを感じました。